

東部療育通信-2017年3月号-

入所と地域の障害児(者)の生活を支援するメールマガジン

発行 東京都立東部療育センター <http://www.tobu-ryoiku.jp/>

日頃より東部療育センターのメールマガジンをお読みいただき誠にありがとうございます。
ございます。

今回は、社会性やことばの発達に遅れがあり、『単語(意味のあることば)がみ
られていない段階のお子さん』への家庭での関わりについてご紹介します。

子どもの社会性やことばはどのように発達していくの？

個人差がありますが、一般的には、生後3か月頃から、あやすと声を出して笑つ
たり、お父さんやお母さんの顔を見て笑ったりするようになり、少しずつコミュ
ニケーションを取りやすくなります。また、この頃から「アー」「ウー」といっ
た声を出すようになり、生後5か月を過ぎてくると、お父さんやお母さんに向かっ
て声を出したり、感情を訴えるように泣いたり、より社会的な意味合いの強い
反応ができるようになってきます。

生後6か月を過ぎると、家族のような身近な人とそうでない人の顔の違いがわか
るようになり、人見知りが始まります。身近な人であれば積極的に関わりを持と
うとし、関わりを積み上げていく中で子どもの情緒が安定していきます。「パバ
バ」「ブブブ」というような声(喃語(なんご)といいます)のバリエーションも豊
かに、そして盛んになっていきます。生後9か月を過ぎてくると、身近な人や欲し
い物に興味を示し、自分から近づいていこうとする様子がみられるようになりま
す。次第に、簡単なことばを理解できるようになり、自分の意思や要求を身振り
等で伝えようとし始めます。生後1歳前後になると、喃語(なんご)には抑揚がつい
て会話らしくなり、徐々に身近な単語(「マンマ」「ブーブ」等意味のあることば
)を話し始めるようになります。

子どもの社会性やことばの発達のおくれ

お子さんの発達が上記のように進まない場合があります。例えば、目安とな
る月齢になっても大人からのことば掛けや関わりに対するお子さんの反応が弱い
、お子さんが大人に向かって要求を伝えようとしない、単語がなかなかでない、
といったことがあるかもしれません。

要因としては、例えば耳の聞こえにくさがある・お子さんが月齢に比べて全体
に緩やかなペースで発達している・他者を意識したり興味や関心を共有したりし

ようとする姿勢に弱さがある等いくつか考えられます。耳の聞こえにくさが心配される場合は、すぐに耳鼻科に相談しましょう。その上で、『単語がみられていない段階のお子さん』に対し、家庭ではどのように関わるとよいのでしょうか。

| 家庭での関わり

■高い高いや抱っこでの揺れ遊びといったふれ合いをするときには、例えばお子さんが笑ったらもう1回してあげる・「もう1回する？」と声掛けし、お子さんなりの反応があれば遊びを繰り返してあげる等の関わりがお勧めです。“反応すると楽しいことがまた繰り返される”という気づきを促し、お子さんから大人に向かっての“もう1回してほしい”気持ちを引き出していきましょう。また、「もう1回する？」と尋ねる時には、いつも人差し指を立ててお子さんに見せてあげ、“もう1回”を表現するサインの理解や使用にも繋げられるとよいかと思えます。

■「いただきます」の時にいつも両手を合わせる・バイバイの場面でいつも手を振る等を大人が手助けしながら日々経験させてあげると、場面とそれに伴う一定のことばやサインがお子さんの中で結びつきやすくなります。

■普段声を出すことが少ないお子さんは、声を出すこと自体を遊びの一つとして楽しんでもらうことが大切です。お子さんが声を出したら大人がその声を真似してあげたり、声に合わせてからだにタッチしたりと、お子さんが楽しくなるような関わりをして発声を引き出していくとよいかと思えます。

ことばは、他者とやり取りをするための道具の一つです。そのため、他者に向かって働きかける姿勢や意欲、他者に向かって要求する姿勢を引き出していくような関わりは、お子さんのことばの力の土台となります。大人の方も関わりを楽しむことで、お子さんと『楽しい時間』を共有していくことが大切です。

参考文献：

太田昌孝 永井洋子(編)(1992). 自閉症治療の到達点2 認知発達治療の実践マニュアルー自閉症の Stage 別発達課題. 日本文化科学社.

お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター(2004). 幼児教育ハンドブック(日本語版). http://www.ocha.ac.jp/intl/cwed_old/eccd/handbook.html (2017年3月12日取得)

今回のメールマガジンはいかがでしたでしょうか？

ご意見・ご要望等ございましたら、遠慮なくお寄せください。

| I | N | D | E | X |

1 : 施設概要のページへ

→<http://www.tobu-ryoiku.jp/outline/>

2 : 入所や短期入所をご希望の方

→http://www.tobu-ryoiku.jp/guide/nyusho_guide.html

3 : 施設開放サービス

→http://www.tobu-ryoiku.jp/service/opening_service.html

4 : 薬剤と検査の紹介

→http://www.tobu-ryoiku.jp/service/medicine_inspect.html

| 施設概要

●東京都立東部療育センターは、重症心身障害児(者)の医療と療育を総合的に行う施設です。

●少子化が進行する中であっても、心身障害児(者)は減少しておらず、また、障害の程度は重度・重症化しています。更には、家族が高齢となったため家族介護が困難で施設入所を希望している方も増えています。

●一方で、できる限り住みなれた地域で在宅の療育を望んでいる障害者や家族の方達は多く、その支援の充実を図ることが一層必要となっています。このような状況に対応するため、重症心身障害児(者)施設が整備されていなかった区東部地区に設置することにしました。

→<http://www.tobu-ryoiku.jp/outline/>

◆このメールは msw_trc@mtrc.jp のアドレスより配信しております。

◆送信アドレスは配信専用です。お問合せやお手続きは下記よりお願いします。

東部療育通信

発行：東京都立東部療育センター <http://www.tobu-ryoiku.jp/>

個人情報保護方針：<http://www.tobu-ryoiku.jp/privacypolicy.html>

問合せ先：<https://www.tobu-ryoiku.jp/inquiry.html>

〒136-0075 東京都江東区新砂 3-3-25

TEL 03-5632-8070 / FAX 03-5632-8071

E-mail msw_trc@mtrc.jp

●配信をご不要の方は、下記 URL にアクセスして下さい

<https://www5.webcas.net/gs/p/delete-user>
